

# 令和4年度 北稜中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません

## 1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

### 2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

## 3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

## 4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

# 令和4年度 北稜中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

## 1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)			平均無解答率(%)		
			国語	数学	理科	国語	数学	理科
3 年	学校	117	78	59	58	2.2	9.5	2.8
	大阪市	—	66	50	46	5.5	12.2	4.4
4月19日	全国	—	69.0	51.4	49.3	4.3	10.8	3.4

## 2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	109	62.5	63.8	61.9	64.1	71.5	8.6	2.8	7.0	3.7	3.1
	大阪市	—	53.4	54.7	54.9	56.8	53.7	11.9	4.3	9.4	5.3	6.8
9月6日	大阪府	—	53.8	55.4	56.0	56.7	54.2	12.1	4.6	9.6	5.8	7.1
2 年	学校	113	65.8	50.0	55.3	62.1	64.8	4.9	4.1	10.4	4.1	4.1
	大阪市	—	58.7	44.6	48.1	53.0	55.2	8.6	5.9	15.8	8.8	6.4
1月11日	大阪府	—	59.6	44.4	49.0	52.9	56.1	8.5	6.3	16.1	9.3	6.5
1 年	学校	118	65.9	62.1	69.2	62.4	72.4	9.6	3.0	3.9	4.5	3.3
	大阪市	—	57.8	51.8	54.2	55.0	58.3	12.1	4.9	7.6	5.3	5.1
1月11日	大阪府	—	58.6		55.0		59.1	12.5		8.0		5.3

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択 2年生の理科はA問題を選択

※ 3年生の理科はC問題を選択

## 3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】	聞くこと 【リスニング】	書くこと 【ライティング】	話すこと 【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3 年	学校	109	131.1	135.1	189.3	126.5
10月17日	大阪市	—	102.8	105.4	152.4	96.6

## 4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 男子1500m 女子1000m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
	118	(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2 年 男 子	学校	28.94	26.19	42.17	52.25		75.89	8.66	179.54	19.26	38.86
	大阪市	28.88	26.10	42.66	51.66	425.87	77.74	8.08	196.13	19.98	40.80
	全 国	28.99	25.74	43.87	51.05	409.81	78.07	8.06	196.89	20.28	41.04
2 年 女 子	学校	24.58	23.72	50.21	47.63		53.94	9.26	169.66	12.63	49.45
	大阪市	23.08	21.91	45.40	46.34	321.08	51.72	9.07	166.28	12.26	47.00
	全 国	23.21	21.67	46.07	45.81	302.89	51.60	8.96	167.04	12.45	47.42

## 【成果と課題】

### ○全国学力・学習状況調査結果

#### <国語>

大阪府および全国と比較して、いずれの領域においても平均正答数は高い値、平均無回答率は低い値であった。領域別でみると、「読むこと」領域において傑出した高い値を示している。学年で行っている読書教育が一定の成果をあげているものと考えられる。

標準偏差は 2.3 で、大阪府の 3.0、全国の 2.9 より小さな値であった。標準偏差はデータの散らばり具合の指標として用いられ、この値が小さいことは、正答数のちらばり具合が小さいことを意味している。正答数が 50%未満の生徒の割合は 10.0%であった。

#### <数学>

大阪府および全国と比較して、いずれの領域においても平均正答数は高い値、平均無回答率は低い値であった。領域別でみると、「関数」領域において傑出した高い値を示している。

標準偏差は 3.3 で、大阪府の 3.7、全国の 3.6 より小さな値であった。正答数が 50%未満の生徒の割合は 10.3%であった。

#### <理科>

大阪府および全国と比較して、いずれの領域においても平均正答数は高い値、平均無回答率は低い値であった。領域別でみると、「エネルギー」領域において、全国および大阪府と同様に平均正答率が低くなっている。特に物理分野における授業改善を進めたい。

標準偏差は 3.9 で、大阪府の 4.2、全国の 4.1 より小さな値であった。正答数が 50%未満の生徒の割合は 43.0%であった。習熟度別少人数授業を活用し、学習内容の定着に課題がある生徒に対する、よりきめ細やかな学習指導を進めたい。

### ○中学生チャレンジテスト（3年生）

#### <国語>

大阪府および大阪市と比較して、いずれの領域においても平均正答数は高い値、平均無回答率は低い値であった。領域別でみると、「情報の扱い方に関する項目」において大阪府、大阪市での平均同様に正答率が低い値であった。また、問題別では、「記述式」で、大阪府、大阪市での平均同様に正答率が低い値であった。得点分布によると、20～34 点に分布の小さな山が見られることから、やや「フタコブラクダ」状態であることがうかがえる。

なお「情報の扱い方」、メディアリテラシーに関しては、国語科だけでなくすべての教育活動を通じて教科横断的に学習を続けていきたい。

#### <社会>

大阪府および大阪市と比較して、いずれの領域においても平均正答数は高い値、平均無回答率は低い値であった。問題別でみると、「記述式」において正答率は他の問題に比べて低いものの、大阪府、大阪市の平均に比べて十分に高い値となっている。

#### <数学>

大阪府および大阪市と比較して、いずれの領域においても平均正答数は高い値、平均無回答率は低い値であった。問題別でみると、「記述式」で、大阪府、大阪市での平均同様に正答率が低い値であったものの、府市の平均に比べると有意に高い値であった。

#### <理科>

大阪府および大阪市と比較して、いずれの領域においても平均正答数は高い値、平均無回答率は低い値であった。領域別でみると、「地球」分野での正答率が府市同様に低い値であった。また、問題別でみると、「記述式」において大阪府、大阪市の平均に比べて十分に高い値となっている。

## <英語>

大阪府および大阪市と比較して、いずれの領域においても平均正答数は高い値、平均無回答率は低い値であった。領域別にみると、「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」すべての領域において顕著に高い値であった。得点分布からは、高得点層に多くの生徒が含まれていることがわかる。

### ○中学生チャレンジテスト（１・２年生）・中学生チャレンジテスト plus

いずれの学年、教科においても総合平均正答率は大阪府および大阪市と比較して高い結果であった。

１年生の対府平均比は 1.20、２年生の対府平均比は 1.14(１年時 1.09)であった。いずれの学年、教科においても、得点分布の散らばりの指標となる標準偏差の値は府市における平均値よりも小さい値であり、得点力に課題のある生徒の割合、人数ともに少なくなっていることがうかがわれる。次年度においても、習熟度別少人数授業等を通して、得点力に課題のある生徒の学力アップをはじめ、個に応じたきめ細やかな学習指導を進めたい。

### ○全国体力・運動能力、運動習慣等調査

男子の体力合計点の平均値は 38.86 で、大阪市での平均値 40.80 に比べ、1.94 ポイント低かった。質問項目「運動やスポーツをすることは好きですか」の質問では、最も肯定的な「好き」と回答した生徒が 54.7%で、大阪市における平均値 58.9%に比べ、4.2 ポイント低かった。総運動時間 60 分未満の生徒は 4.8%で、大阪市平均の 13.1%に比べ顕著に小さい値であった。

女子の体力合計点の平均値は 49.45 で、大阪市での平均値 47.00 に比べ、2.45 ポイント高かった。質問項目「運動やスポーツをすることは好きですか」の質問では、最も肯定的な「好き」と回答した生徒が 46.0%で、大阪市における平均値 40.7%に比べ、ポイント高かった。総運動時間 60 分未満の生徒は 18.5%で、大阪市平均の 25.8%に比べ顕著に小さい値であった。

保健体育の授業や運動部活動を通して運動やスポーツに親しみ、適切な運動習慣を身につけていると考えられる。